

令和元年度 第2回香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

- 日時 : 令和元年11月27日(水) 9:00 ~ 11:30
- 場所 : 天然色劇場 リハーサル室
- 出席者 : 44人 (策定委員15人・市職員20人 [市長含む]・傍聴4人)

1. 開催目的

分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に参加いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

2. 議題

- 第1期 香南市産業振興計画 各分野における評価について
- 第2期 香南市産業振興計画(案)について

3. 内容

次第に沿って進行

事務局より第1期香南市産業振興計画 各分野における評価を報告し意見交換を実施。

事務局より第2期香南市産業振興計画の方向性を説明し、その後、各部会長より各部会で話し合われた内容と第2期の数値目標と戦略の柱についての考えをご報告いただき、意見交換を実施。

4. その他

5. 閉会

◆ 開 会

◆ 市長挨拶

◆ 議 事

(赤池委員長)

本日は朝早くからお集まりいただきありがとうございます。

さて、第2回香南市産業振興計画策定委員会に向け、事務局とこれまで打合せを行ってきました。その中で、10月15日に合同部会ということで、「香南市の農家さんの姿を考える」ということで、皆様に、首都圏・都市部の方から香南市の農家、または香南市がどう見えるのかということについて考えていただきました。

私自身、多くの自治体で産業の振興や総合戦略に携わる中で、「産業の担い手をどう確保していくのか」「どういったメンバーと将来、産業を興していくのか」ということが大きな課題になっている。

第1期もそうだが、第2期の香南市の産業振興計画においても、先だって行われた合同部会の中でご議論いただいた「産業の担い手をどう確保するのか」が大きな課題になろうかと思っています。

2つ目は、本日の会でご議論いただきたいのは令和2年度から令和6年度までの第2期の中で、どのような方向で行くのか、これまでの第1期を継承しつつ、市長からもお話があったとおり、メリハリをつけて、単年度、または、5年後の香南市の産業の姿というものを具体的にイメージできるような計画策定に向けて、各部会の会も含めて進めていければと思っています。

皆様にご協力いただき、しっかりと議論をして、第2期の策定に繋げていきたいと思っています。

さて、本日の議題は大きく2つを予定しています。

1つ目は、H27から取り組まれてきた『「第1期」の振り返りについて』になります。

こちらについては、まず資料の見方とH27～H30年度の4年間の精査について事務局よりご説明をいただき、皆様よりご意見をいただきたいと思っています。

2つ目は、第1期の取り組みを踏まえて、来年度から取り組む「第2期」の香南市産業振興計(案)について、冒頭、事務局より資料の説明も含めて、ご説明いただき、そのうえで、これまで各部会で議論され、どのような計画を考えておられるかについて、各部長からご説明をいただき、皆様からご意見をいただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ここからは、議事①「第1期 香南市産業振興計画 各分野における評価」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、第1期香南市産業振興計画の各分野の評価を含めた取り組みについて、ご説明いたしま

す。資料1をご覧ください。

まず、1ページをお願いします。

こちらには「人口ビジョン策定の背景」を記載しています。

本市は平成27年度にまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定と合わせて、香南市人口ビジョンを策定しています。

社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に行った推計では、本市の人口は、2060年には約23,000人となっています。緑のグラフになります。

資料の上から4行目以降にも記載していますが、人口の減少は、経済規模の縮小や社会保障費の増加等、経済社会に大きな影響を及ぼし、都市の持続が困難になってきます。

そこで、本市は、2060年の総人口の将来展望の見通しについて、自然減の縮小や社会増に向けた一連の対策を講じることにより、30,800人の実現を目指すこととする人口ビジョンの策定を行いました。こちらは青色のグラフになります。

次に、2ページをご覧ください。

こちらには、香南市産業振興計画の基本的な考え方を記載しています。

黄色の枠内の下から4段目ですが、人口の流出・流入の背景や各産業の現状を踏まえて、本市では、地域住民が元気で働ける、バランスのとれた持続可能な産業構造を構築することに加え、学びの段階から事業化までの多様なサポートにより、実践者のチャレンジを応援する体制を築くために、平成27年度から本年度までの5か年計画として「香南市産業振興計画」を策定いたしました。

次に、3ページをご覧ください。

こちらには、香南市産業振興計画の基本目標と基本的方向を上段に記載し、中段には、策定当時の各分野の現状と基本的方針を記載しています。

次に、4ページから8ページには、各分野の数値目標や各分野の主な事業について掲載しており、策定時から5年後の令和元年度の目標値をお示ししています。

なお、この数値目標と各事業等の基準値および目標値は、取り組みを始めた当時のものを掲載しています。

次に、9ページをご覧ください。

上の左右の絵は、産業振興計画の体制や、分野別部会や合同部会を開催してきたことを示しています。また、下半分は、平成28年度から本年度までの主な取り組みを記載しています。

次に、10ページをご覧ください。

10ページから13ページまでは、各分野の成果と課題を記載していますが、分野ごとに、ご説明いたします。

まず、農業分野ですが、農業分野の「新規農業者数の確保」については、平成27・28年度は目標を達成できていたことから、平成28年度末に目標値の上方修正を行ったが、翌29年度以降は、目標達成には至っていません。年間の累計人数では、目標59人に対し、現在4年間で47人となっています。

第2期香南市産業振興計画においても、引き続き、新規就農者が増えるよう、就農支援や補助制度の拡充と就農に向けたイベントに参加し、周知を行っていきます。

さらに、平成30年度に整備した実践型研修ハウスの利用を促し、より就農に近づくよう管理運営に努めながら、既存農家の労働条件の改善のための水路・堰の改修を進めるとともに、今後、発生件数が増加してくると予想される災害復旧の支援にも力を注いでいきます。

次に、11 ページの林業分野ですが、林業分野の「森林境界明確化事業」については、森林の所有者が特定できない、同意が得られない、事業主体の香美森林組合や高知県等関係機関との調整が必要等の理由から事業未実施の年度が続いていたが、平成 30 年度から事業を再開しています。

次に、水産業分野になります。

水産業分野の「沿岸漁業総生産量」については、平成 28 年度が 693 トンと例年になく不漁でありましたが、翌年度からは総生産量は上昇し、平成 30 年度には目標値 1200 トンに大きく近づいています。

また、高知県漁業協同組合手結支所が、シイラの加工・流通・販売体制の強化に取り組んだ成果もあり、総生産量と合わせて生産額も大きく上昇しており、所得の向上は図れています。

後継者の育成については、高知県漁業協同組合赤岡支所において、平成 26 年度途中から 2 年間の研修で、シラスバッチ網への新規漁業就業者を 1 名確保したのみで、漁業就業者の高齢化から新規漁業就業者の確保が課題となっており、関係機関と連携し確保に努めているが、市内主要漁業形態の特徴から一人での就業は難しく、就業に至っていません。

引き続き、就業支援センター等と連携を図り、新規就業者の確保に努めていきます。

次に、12 ページをご覧ください。

商工業分野の「製造品出荷額」は、基準年の平成 26 年度が 407 億円であり、目標を 500 億円と設定していたが、平成 27 年度から減少し、目標値達成は困難となっています。

減少の理由として、香我美町のルネサスエレクトロニクスの撤退に伴う製造品の出荷の減少が大きく影響していると思われます。

しかし、平成 30 年度には香南工業団地への企業誘致（5 区画）が完了し、ルネサスエレクトロニクス(株)の譲渡先が決定。立地企業の会社説明会や面接会を関係機関と連携し実施しており、多数の参加と地元雇用の確保に繋がっています。

また、企業に関するさまざまな知見やネットワークを有するイシン株式会社定を締結することができたことから、首都圏企業への誘致活動を行う等、新たな企業誘致の取り組みを進めていきたいと考えています。

次に、観光分野ですが、観光分野の「観光施設入込客数」については、平成 27・28 年度に目標を達成しており、「志国高知 幕末維新博」の開催にあわせ、平成 29 年 2 月に 100 万人から 120 万人へ上方修正を行いました。その後、目標達成には至っていません。

今後は、既存のイベントのバージョンアップを行うとともに、天候に影響されることなく集客の確保が図れるイベントにする等、内容を見直すことにより新規顧客の開拓やリピーターの増加を目指します。

次に、13 ページのサイクリング分野ですが自転車を活用した取り組みとして、平成 30 年度に地域おこし協力隊を雇用し、市内のサイクリストや関係者に声掛けを行い、サイクリングを推進する団体「Maze-Cle (マゼクル)」を設立されました。

今後は、県内のサイクリング関係団体等とも連携し、健康増進と環境に配慮した取り組みやイベント、サイクルオアシス等の環境整備をすすめ、「サイクルツーリズム」による観光の促進を図っていきたくて考えています。

次に、住宅分野です。

住宅分野では、住環境の整備として、市内に所有し居住する個人住宅を対象に、リフォームに対する支援を行ってきた。制度活用の需要は多く、地域経済の活性化及び生活環境の向上は図れており、

引き続き、本制度の周知に努めていきたいと考えています。

また、住宅の耐震化事業にも取り組んでおり、木造住宅耐震診断や耐震改修費への補助金も整備しているが、利用は目標まで至っておりません。

また、空き家対策として、空き家バンクの登録や老朽住宅等除却事業を実施しており、こちらは目標を上回る実績となっています。

引き続き、事業の周知と空き家の利活用を含めた移住施策と連携を図っていきたいと考えています。

次に、14 ページは、各分野の取り組みのまとめ、また、15、16 ページには、各分野の評価検証結果一覧を載せています。

次に、17 ページをご覧ください。

こちらには、第 1 期計画のまとめを掲載しています。

本市の経済活動別総生産は増加傾向にある中で、今まで産業振興計画に取り組んできましたが、それぞれの数値目標に対する達成率は、高いとは言えません。

その背景には、人口が減ることに伴い、生産年齢人口が減少していくことの余波を受けており、人材、いわゆる担い手の確保が困難な状況が出始めていることが、本市の経済のブレーキとなっていること、また、本市の圏域内における各産業の賃金の問題や有効求人倍率の低さ等が考えられます。こうした事から、下から 3 行目に記載していますが、香南市産業振興計画では、各分野の取り組みを継続していくとともに、施策同士の連携による相乗効果を高めていき、必要な改善等を図りながら、「第 2 期 香南市産業振興計画」を策定していく事としています。

最後に、18～20 ページは、使用しました参考資料をつけています。

なお、別冊の参考資料 1 は、平成 27 年度から平成 30 年度までの評価一覧、また参考資料 1 は、本年度の取り組み状況一覧ですので、後ほどご確認ください。

長くなりましたが、説明は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

それでは、今ご説明いただきました、第 1 期、または、これまでの成果についてご意見をいただければと思います。

(委員①)

人口の推移があると思うが、香南市の自然増減の状況を把握したい。

それを見て、計画がどうかを判断したい。

(委員②)

本日関係課が詳しい資料を担当課が持ってきていない。

次回の会でお示しをさせていただく。申し訳ない。

別計画だが、まち・ひと・しごと創生総合戦略ではその部分も含めて検討はさせていただいているところである。

(委員①)

自然増減を見越して、第2期計画を作っていく必要があるのではないかと。

(委員②)

自然減の数字もだしているし、合計特殊出生率の推計数値も出している。

社会減についてもどこから香南市に、また香南市からどこへという風なデータも出しているところ。次回の会ではそこも出させていただく。

(赤池委員長)

資料内に社会増については、2025年からは毎年120人を必要としていることが描かれている。

産業振興計画の位置づけだが、田内委員からもご説明があったとおり、まち・ひと・しごと創生総合戦略の「しごと」の部分を皆様にご議論いただくことになっています。

私の方から、第1回目の策定委員会や事務局との打ち合わせの中でこれまでのまとめを振り返ったなかで、少し気になるところがございました。

先ほど市長もありましたとおり、それぞれの産業の基本目標を数値で当てているが、それを達成すると5年後に香南市が、または各産業がどうなるのか、見えてくるのかがよくわからないというのが正直あります。

それぞれの数値目標の達成した際の姿が、具体的に市民の方にもお伝えできるように、また、委員の中でも共有できるような第2期の取りまとめが良いのではないかと感じているところです。

もう1つは、資料1の2ページをご覧ください。

産業振興計画は、これまで、行政が主導で進める取り組みである「産業成長戦略」ということで、行政を中心に、各事業を当てはめ、それぞれの目標を明確にして取り組んできたところです。

一方で、市民や地域、団体・企業等が主体となり進める取り組みである「地域活性化策」の部分はなかなか、会議の中で情報共有されることは少なかったと感じています。

民間や市民の方が取り組んでいる産業の状況について、第2期では、より、ここの連携について、具体的にしていける必要があるのではないかと感じているところです。

それでは、平成30年度までの4年間の第1期香南市産業振興計画の状況をご確認いただきました。

今後は、今年度の取組状況までを記入したものを今後はしっかり引き継ぎ、第2期へとつなげていくこととなります。皆様にご確認いただいたということですのでよろしいでしょうか。

※ 反対意見なし

それでは、ここからは、議事②の「第2期 香南市産業振興計画(案)」について、まずは事務局より資料の見方と方向性についてご説明いただき、そのうえで、各部会長より、各分野の取組案についてご報告いただきます。

なお、スケジュールにもありますとおり、部会の報告はまず、農・林・水について各部会長からご報告いただき、そのことについて各委員よりご意見をいただきたいと思います。

その後、休憩を挟み、商・工業のご報告をいただき、意見交換を行いたいと考えています。

それでは、事務局より、ご説明をよろしくお願いたします。

(事務局)

それでは「第2期 香南市産業振興計画（案）」について、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。

まず、1～2 ページは、高知県産業振興計画の取り組み状況になりますが、高知県は人口減少等により負のスパイラルの動きが進み、このままいくと少子化が加速していく等の問題点を解決するために、高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略への取り組みを進めている旨を載せています。

次に、3 ページには香南市の人口ビジョンおよびまち・ひと・しごと創生総合戦略の趣旨を、また、4 ページには香南市産業振興計画を策定した経緯を載せています。

次に、5 ページから 8 ページですが、各ページの左側には、第1期の各部会の取り組み状況、右側には、第2期の数値目標と戦略の柱を掲載しています。

なお、第2期の具体的な内容については、後ほど各部長よりご説明いただきます。

次に、9 ページをご覧ください。

ページの左側には、第1期の取り組みを進めてきた中で見えてきた「課題」を、右側には、その課題に対する第2期に向けた取り組みの方向性を掲載しています。

まず、左側の第1期から見えた課題といたしましては、資料1でもご説明しましたが、まず、各分野の目標に対する過去4年間の達成率は、高いとは言えないこと。また、その背景には、今後、必ず人口が減ることや生産年齢人口が減少していくことの余波を既に受け、人材（担い手）の確保が困難な状況が出始めていることが、本市の経済のブレーキとなっていること。また、香南市圏内における各産業の賃金の問題や有効求人倍率の低さ等があること等を記載しています。

右側には、こうした課題に対する、取り組みのポイントを4つ示しています。

まず、1つ目は、「各分野の既存の取り組みの強化」ということで、これまでの取り組みはもちろんのこと、第2期では、他分野との連携をさらに強化し、スピード感をもって取り組み、各分野に携わる皆様と行政が一体となって、取り組みを前進させる必要があります。

次に、2つ目は、他分野や関係機関との連携等を図ることで「新たな付加価値」を産み、実現に向けて取り組んでいく必要があります。

次に、3つ目は、「担い手確保の強化」ということで、各分野の担い手に対する取り組みはもちろんのこと、各分野と連携した「担い手確保策」や各学校の新卒者に向けた「市内就職の促進」等を強化すること、また「人」に代わる先進技術の導入等を進めていく必要があります。

次に、4つ目は、各産業の魅力化に向けた取り組みをさらに強化ということで、各分野の所得向上に向けた取り組みや、各分野の情報発信の強化、新たな産業・企業の誘致等に向けた取り組みを強化していく必要があります。

次に、10 ページになりますが、先ほどの9 ページの4つのポイントについての資料となりますので、説明は省略いたします。

最後に 11 ページですが、こちらは『香南市産業振興計画によって目指す将来像』について掲載しています。

上の方に赤字で「戦略」と書かれている所ですが、第2期 香南市産業振興計画では、より力強い産業の拡大を図るため、分野を超えた連携を強化し、新たな付加価値化の創出、担い手の確保、人材育成策を推進することで、所得の向上につなげ、魅力ある産業化に向けた取り組みを進める事により、本市が目指す将来像である「地域住民が元気にいつまでも働くことのできる香南市」・「次代を担う若者が、地域で誇りと希望を持ち、産業の新たな担い手となって活力が保たれる香南市」を

目指すために、より一層取り組みを進めて行きたいと考えています。
説明は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

第2期香南市産業振興計画の案の全体像をご説明いただきました。

続いて、各部長より、各分野の第2期の取組についてご報告をお願いいたします。

(委員③)

資料2の13ページをお開きください。

第2期計画に向けての目標は、1期目と同様で新規就農者の確保を大きな目標とし、目標数値の基準を15名としました。

この数値は、市内の耕作放棄地の中でも、再生可能な圃場の年間増加面積から過去6年の平均をとり、それを香南市の産地提案型7品目の経営モデル面積の1品目1人当たりの平均面積で割り出したものを目標数値としています。

簡単に言えば、耕作放棄地全てを賄うことはできないですが、条件のいいと思われる耕作放棄地の増加が、新規就農者15名によって解消されるというものです。

その数値を維持し、産地を守っていくという考えから最終累計75人としています。

次に、戦略の柱としましては、安心して経営しやすい農業施設の整備を行うための、「基盤整備や防災への取り組み」といったハード事業と、新規就農者への施策を充実させ、「担い手確保に向けた取り組み」としてのソフト事業がバランス良く実施されることにより農地が守られ、「経営改善や農地維持に向けた取り組み」に力を入れていくことができると考え、3つの戦略の柱としました。拡充施策としましては、担い手確保に向けた取り組みの中での農業次世代人材投資事業の準備型や農の雇用事業や担い手育成支援事業等、国や県の制度の変更により拡充しております。

また、経営改善・農地維持に向けた取り組みの中では、人・農地プランの実質化を加えています。これは、全ての農家と農地所有者を対象に、農地を今後どうしていくか、今後の経営はどうしていくか、後継者はいるのか等のアンケートを実施し、その結果を地図に落とし込み、それをもとに地域で人と農地の未来像を話し合い、産地を守っていくことを目的とした事業です。

また、担い手確保に向けた取り組みの中でも、農の雇用事業補助金に上乗せを追加したり、より多くの就農希望者を救う施策として、担い手支援事業の拡充を行っています。

また、1期目に引き続き、農家への環境制御装置導入普及事業や産地パワーアップ事業を活用した先進機器の導入を促進し、生産基盤の向上に向けた取り組みに努め、「就農地を香南市にしたい」という魅力のある産地づくりを目指します。

さらに、平成30年度に整備した実践型研修ハウスの利用を促し、経営不安定な新規就農者への栽培サポートも行い「新規就農といえば香南市」となるような取り組みを進めて参ります。

また、既存農家の労働条件の改善のための水路・堰の改修を進め、今後発生件数が増加していくと予想される災害復旧の支援にも力を注いでまいります。以上です。

(委員④)

続きまして林業部会です。14ページをご覧ください。

林業部会では、第2期計画において「間伐面積」を大きな目標として掲げることになりました。戦後植林された人工林は収穫期を迎え、間伐を実施することで、木材の販売収入による経済効果のみでは無く、森林の持つ「水源かん養機能」、「土砂崩れ等の防止のための減災機能」、「生態系保全機能」の維持・増進も図る事も出来るという観点から目標を設定いたしました。

間伐を行う事業としては、2つの事業に着目します。

まず1つ目は「緊急間伐総合支援事業」です。

これは、以前から実施していた事業で、香美森林組合等が事業主体となり補助金を活用し保育間伐や搬出間伐を実施するものです。

2つ目は、「森林管理制度間伐委託事業」です。

これは今年度より始まりました「森林管理制度」及び「森林環境譲与税」に関わる事業でありまして、市内の手入れが遅れている森林の所有者に対して市が「意向調査」を行い、「市に管理を委ねる」との回答があった森林の内、「経営が成り立たない森林」に対して、市が事業主体となり民間事業体に委託し間伐を実施します。

これらの2つの事業の合計数値を間伐面積の目標といたします。

具体的な数値目標といたしましては、5年間で250haの間伐を実施することとしました。

これは香南市内での間伐実績から考えると2倍以上の大きな数値となっておりますが、今後、「森林管理制度」による間伐面積の拡大が期待できること及び、間伐材販売による経済効果や環境への貢献も期待できることから50haを目指すこととしました。

この目標の達成に向けた戦略の柱は2つあります。

1つ目の柱は、シート左側の緑枠上段の「森林環境の保全に向けた取り組み」で、事業内容としましては、数値目標でもあります「間伐事業の実施」のほか、第1期計画の大きな目標として掲げておりました「森林境界明確化の取り組み」及び、森林環境譲与税を活用した「森林の管理」を実施します。

これらにより森林の境界の明確化を更に進めると共に、森林所有者への意向調査を実施し、間伐事業地の拡大を図ります。

2つ目の柱は、「啓発・普及の取り組み」です。事業内容は、小・中学校の授業や行事での森林学習、市内施設での子どもたちを対象にした木育イベントを開催します。これらにより、子どもたちに山や林業に親しむ機会を提供し、森林の重要性等の啓発・普及に努めて参ります。

以上が林業部会の第2期計画における取り組みとなります。

(委員⑤)

水産業部会のご報告をさせていただきます。15ページをご覧ください。

目標値につきましては、第1回部会で、「生産量より生産額が増えることが漁業者の所得向上に繋がる」「魚価をあげるためには付加価値をつける必要がある」「生産量が少なく、生産額が多いことは単価がいいことでありそれが理想である」といった「生産額の向上」を目標としていく必要があるとの意見が多数を占めました。

そのため、生産額に重きを置き、過去の実績値をもとに、伸び率10%を乗じて、次期目標値は令和6年度に年間3億円の生産額を目指すということで決定しました。

10%の向上とさせていただいたのは、漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指すための総合的な計画であります「浜の活力再生プラン」において、5年で10%以上の達成を求められること

からです。

この代表的な目標に向かうための戦略の柱としまして、大きく、効率的な生産体制の構築による漁業生産の維持として「地産の強化」、市内水産物の地域からの発信、香南市ブランドの確立による認知度向上を進めていくため「流通・販売の強化」、今後も持続可能な水産業を目指すため、「担い手の確保」を掲げて進めていくことになりました。

委員からは、「水産業は特に自然条件に左右されるが、なんとか頑張りたい。」という意見や、これはシラス加工業者さんからの意見ですが、「目標値の設定については魚価向上を考慮し設定しているが、魚価が向上することは加工業者の経営にも直接影響がでてくる。生産から販売までの一連の流れの中で加工業者の売り上げ等も参考にし、各取り組みを検討してほしい。」

「次世代に引き継ぐためブランド化をしていく必要があり、そのことが単価向上につながる。また、高知に来たらカツオと一緒にシイラの刺身も空港・宿泊施設で食べれるように、これからの12年で取り組んでいきたい。」

といったように、市内水産物のブランド化・認知度向上に関する取り組みを行い、単価を向上させ総生産額を伸ばしていく方向性の意見が多数を占めました。

また、今回から委員として、今年4月1日に設立された「一般社団法人 高知県漁業就業支援センター」の方も参加していただいております。

その中で今後の戦略の柱の「担い手の確保」に向けて、県内の就業者の現状をご報告していただきました。

「設立されて7か月経過し、問い合わせで70名、そのうち県外の方が50名、短期研修を受講した方が40名、それから長期研修に移行した方は11名となっている。今後も10名長期研修の予定があり、21名の新規漁業就業者の確保となっている。」

「親の跡継ぎで漁業者になる方より、孫・おい等、県外で生まれているが、夏休み等に高知へきて漁業をみてきた方がIターンする事例が多くなっている。」

「県外のフェアでは、実際の漁の映像を見せて説明している。参加者は非常に興味を持っている印象である。」「今後は生活プラン等示すものを用意していく必要がある。」

「漁師をしたい人はたくさんいることを皆さんに知ってもらいたい。」というご報告がありました。今後は、希望者に対して、仕事だけでなく、住居情報等生活環境についての様々な情報も含めた「生活プラン」を作成し、示していくことが、担い手確保につながるということで今後の計画にも反映していくこととなりました。

以上の意見を踏まえ、第二期香南市産業振興計画に向けての代表的な目標値を決まり、方向性が確認できたことから、実際にどのような取り組みを実施して目標値を目指して取り組んでいくか、個別の目標値も含め、12月中に案を作成し、検討していくこととなりました。

簡単ですが、以上で水産業分野の次期計画の代表的な目標値についてのご報告を終わらせていただきます。

(赤池委員長)

ありがとうございました。まずは農・林・水産業についてご報告をいただきました。

この産業振興計画は、様々なお立場や市民の立場で香南市の産業を考えていく会でございますので、自身の産業や仕事とは違う中で構いませんので、皆様ご意見をいただきたいと思っております。

(委員⑥)

まち・ひと・しごと創生総合戦略中にも出てきますが、人口の減少や担い手の確保については、この3分野についてはすごく問題であることはずっと認識しています。

この分野について、地域の子供たちは知識が少ないのではないかと日頃感じている。

人材育成や確保のために、Uターン・Iターンというワードが出るが、現状、この地域に住んでいる子供たちに教育・啓発にあるのは、林業・水産業には出てくるが、農業についてはない。

農業については旧町ごとに産品があり、学校ごとにその教育が委ねられていると思いますが、農業分野として、地域の子供たちに何か啓発するとか、農業体験をというような意見は出なかったでしょうか。または、何か計画されているようでしたらお教えいただきたいと思います。

(委員③)

部会としてはその議論はありませんでしたが、JAの青年部等では、田植え、稲刈り、芋植えや餅つき等は行われている。

(赤池委員長)

上位計画であるまち・ひと・しごと創生総合戦略や当計画で、「次代を担う若者が、地域で誇りと希望を持ち、産業の新たな担い手となって活力が保たれる香南市」がある。

将来の産業を担う子供たちの世代と、産業振興計画のつながりをもう少し意識しても良いのではないかという意見だと思う。

(委員⑥)

JAの青年部等が取り組んでいるから、当計画には反映されていない部分なのかなと感じているが、市として、それをバックアップしていくとか協力するとかの体制があれば、もう少し確立されていくのではないかと考えています。

(赤池委員長)

もう1つお伺いしたいのは、第2期香南市産業振興計画では分野間の連携を強化していくと説明がありました。

観光という切り口で、1次産業とのつながりを、第1期の取り組みも踏まえ、第2期にはどのような意見がございませうでしょうか。

(委員⑥)

観光分野についてですが、サイクリングとの観光連携を行っていくと資料から拝見をしている。

現在、観光と農業を繋げた取り組みを行っているが、観光を取り入れた取り組みをする際に、最終の着地地点を、農業であれば、就農に繋がるように、または、農業・林業・漁業を知っていただくための企画にしている。

単なるイベントで終わらないようにすることで、長い目で見ると、子供たちにもその地域や産業のことを知っていただけると考えている。

(委員⑦)

JA 青壮年部等の取り組みのご紹介がありました。

市の方でも、学校給食の取り組みの中で、ニラやイモ、稲の体験型教室等の取り組みを行っています。

JA では、先ほどの取り組み以外でも、食農教育で「あぐりフレンドクラブ」という取り組みをしており、市の取材も来ていただいている。

このような JA と市の連携等を「担い手確保」の中に盛り込むような形で、整理をすることによって情報発信をしていくことが、市民への情報発信となると考えますので、ぜひ再検討をよろしくお願いいたします。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

本日は方向性についてご確認をいただく会であり、細かい取組や事業の中身については、本日の会を踏まえて、次回の会にお示しする流れとなっています。

しかし、私が農業について気になるのが、第1期の目標が達成できなかった部分が、例えば、各事業の取り組みを拡充することで、どう変わっていくのかというところを、こちらも次の会でお示しがあると思いますが、非常に重要な部分だと考えています。

理由は、香南市の人口ビジョンを見ると、人口動態についてはより厳しくなっていくことが見込まれますし、各産業の雇用の状況もわからない部分があると思います。

その中で、これまでの取り組みを引き続き行い、拡大させていくという、「事業の拡大の方向性」について、第3回策定委員会の中で具体的にお示しをいただきたい。

これができるか、どこに重点的にこの施策を打っていくのか、この産業振興計画では、どこの施策を中心に考えていくのかについて明確にできると思います。

数値目標は、第1期の同じ目標値と掲げていく中でも、人口動態等から状況は厳しくなっていく。この部分について、事業についてどう拡大していくのか、次回の会で、「具体的に拡大の方向」をお示してください。

(委員④)

林業についてですが、農林課の考えもありますが、香南市の山は収穫時期であることは先ほどご説明させていただきました。収穫を始めていく部分では、第1期とスタンスが変わっている。

また、森林環境税の取り組みが今年度より始まっており、来期からはその活用を行っていく。

毎年一定の金額が香南市にも入ってくることから、その財源を活用し取り組むものに「新マーク」がついている。

内容としては、森林所有者がわからないという現状を打破するための取り組みや現在山を持たれている方に管理をしていくのかどうかの意向調査を行い、管理困難であるという方には、市が整備してあげる取り組み等が新たな取組である。

第1期では、森林境界明確化の取り組みで、国の補助事業を受けて、香美森林組合が境界を明確化していたが、なかなかうまく進めることができてこなかったが、来期より市が主体となってこの事業を行うということである。

今まで1本柱だったが、2本柱体制を敷き、大きく進展させていくのが第2期である。

従来の間伐に対して、これからどれくらい大化けするかわからないが、数値目標としてはかなり意欲的な数字だと考えている。

また、委員⑥からのお話ですが、安芸高校等では各分野の仕事の話をする機会があり、その中で林業について話をした経験がございます。

別件ですが、小学3,4年生を対象にした話の中では、林業のイメージは、斧で大きな木を倒すのままなのです。

しかし、実際は大きな重機が現場に入り、枝をうち、何本もの木を運搬するものであり、そのイメージと現実のギャップによく驚かれる。

全国的に、安芸郡の林業は有名であり、高知県の林業も全国でも有数である。

これは過去の従事者が非常に頑張ってきた証でもあるわけです。

そのような経緯で育った木が、今収穫時期を迎えているわけで、今であれば生活できる産業としてお勧めできるときに来ている。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

1つ目のお話は、社会情勢の変化、法律の変化ということで、森林系管理法案ができるということと森林環境贈与税ができるということで、森林に対する税収の見込みであったり、市町村が森林に対して関われる法律ができていくことで変わってくるということでした。

2つ目ですが、私は林業が専門でもあることから、東京の林業担い手フェアに参加することがあるのですが、長野県と高知県は非常に人気な状況であることから、担い手の状況は、水産業等とは違うのかなと感じています。

また、先ほど、委員⑥からのご意見がありました、「教育」に対する産業振興計画としての関わり方について、当然、産業の生産額と直接結びつくところではありませんが、将来の、次世代の、若い世代が香南市で誇りを持って暮らし働ける場所に直結するところではあると思いますので、どこかの部分で関わりということ意識していき、各分野で活動していただけるように考えています。

(委員⑦)

農業分野の中で、人・農地プランの実質化ということではありますが、これは農業委員も比較的關係している。

人・農地の本当の姿を示していけないといけないということで、すごく今動き出している。

ここ2年くらいで転換期に来ていて、アンケートも送るのではなく、1軒ずつ直接伺って聞き取ることのしないいけないのではないかとということで取り組んでいる。

現在、農家を引退し農地だけを持っている方に実際に聞きに行くと、今まで見えていなかったものも見えてくる。

そういうことも、少しずつ知ることで地域をよくするために活用するべきではないかと感じている。

今までは耕作放棄地をどうするかについて議論していただが、これからは「耕作放棄地にせず担い手に渡すこと」について考える必要があるし、喫緊の課題と感じている。

(赤池委員長)

人・農地プランの実質化という農業部会の第2期の取組についてご意見をいただきました。

ありがとうございました。

水産業部会についてですが、ご報告にもありましたが、資料を見ますと非常にきれいにまとめていると感じている。

量から金額へ変えていくことについて部会で議論を交わしたところだと思いますし、より目標が明確になることで、皆さんの目標に対する責任も非常に大きくなっていくわけですが、こういうところで新しく挑戦いただけることは、非常に前向きに取り組む姿勢だと感じています。

(休 憩)

(赤池委員長)

それでは、次に、商・工業分野についてご報告いただき、意見交換へと移りたいと思います。

早速ではございますが、商業部会よりよろしく申し上げます。

(委員⑧)

商業分野についてご報告させていただきます。16ページをご覧ください。

第1期産業振興計画では、商工業分野共通の数値目標として製造品出荷額500億円以上を掲げておりましたが、今年度の第1回商業部会開催時に委員からも「商業分野としての目標設定にそぐわないのではないか」や「具体的にどういうことをすればいいのかイメージがつかない」等のご意見が多々あり、商業分野独自で目標を設定する必要があるのではという意見がありました。

そのため、第2期香南市産業振興計画では、商業分野独自の数値目標を定め、様々な取り組みを行っていきたいと考えています。

数値目標としましては、商業者数の維持及び事務系企業誘致の2つを設定しています。

まず、商業者数の維持につきましては、香南市商工会が保有する商工業者数のうち、商業の分の数字だけを出すことができますので、その数字を基に商業者数としていきます。

なお、経済センサスから抽出することも可能ですが、こちらは、一般社団法人ですとか、商工課、宗教法人、神社等も含まれており、商業者数を拾うのには難しいと判断した。

また、香南市では、過去3ヶ年平均で4事業所が創業しており、一方で、過去3ヶ年平均で5事業所が減少しております。

第2期の取り組みを踏まえて、少しでも商業者が増加するように、空き店舗を活用した創業や事業承継に向けた取り組み等を行い、令和2年度の813事業所から微増ではありますが、維持・増加を図り、令和6年度の最終目標値である、817事業所を目指すこととしています。

部会では、「現状維持というのも難しいと思うが、香南市として前向きに取り組む必要がある」等の意見をいただいたことから微増ですが増加させていくことで設定しています。

また、高知県や商工会、地域事業者等の関係者と連携し、中期的な指針として商店街等振興計画の策定に取り組めます。

地域の商業を維持・発展させるためにはどういうことが必要なのか、細かい施策等も議論いたしまして、計画に盛り込んでいきます。

また、市内に多く点在する空き店舗が実際に市内にどの程度あるのか、また、こういった形態が多

いか等空き店舗に関する調査を実施したいと考えております。

皆様の感覚で、旧来あった店舗が空いていたら「空き店舗」と思われる方が多いと思うのですが、『貸す意思』がないものは法律上、空き店舗とは言えません。

なので、不動産屋さんの「貸」があることで意思表示になるわけですから、初めて空き店舗としてみなされます。その他は空いていても、空き店舗ではない状況です。

ただ、直接聞いてみると、「貸しても良い」と答える場合もあることから、来年度にこのような調査を行いたいとしています。

また、その調査データを踏まえ、どういった施策が必要になるか、また、空き店舗情報を集約し発信できる空き店舗バンク（仮称）の創設に取り組んでいきたいと考えております。

創業支援に関しましては、平成 28 年 8 月に認定を受けた創業支援事業計画の終期到来によるブラッシュアップを行うことや創業時の経済的負担を軽減する支援策を継続し、より創業しやすい環境が作れるように取り組みます。

また、新たな数値目標である事務系企業誘致数ということで、これまで工業分野の施策として取り組んでおりましたが、空き店舗等を活用し企業誘致を行うことから、第 2 期からは商業分野の施策として取り組んでいきます。

最終目標は毎年 2 企業で、延べ 10 企業の誘致達成を目指します。商業部会からは以上です。

（委員⑨）

続きまして工業分野のご説明をさせていただきます。資料 2 の 17 ページをご確認ください。

第 2 期工業分野の数値目標といたしましては、製造品出荷額と新たに新規雇用者数を目標値として加え、拡大再生産による雇用の拡大と地域の賑わい創出を図ることといたしました。

製造品出荷額の数値目標につきましては、令和 2 年度の 320 億円から段階的に増加を図り、令和 6 年度の最終目標値である、5 ヶ年で 1,800 億円を目指すこととしております。

各年度の目標値は令和元年度策定時の基準値である 397 億円及び第 1 期の各年度目標値であった 500 億円を下回っておりますが、これは、平成 30 年 5 月に閉鎖いたしましたルネサス高知工場の製造品出荷額の約 100 億円を考慮し、令和 2 年度以降の既存企業及び新規立地予定企業の事業計画と、企業誘致支援制度の見直しにより、増加が見込まれる製造品出荷額を算出したものです。

第 1 期の取り組み以降、香南工業団地の完売や、川谷刈谷地区への企業立地等により、企業誘致を行うための工場用地が不足しております。

第 2 期からの取組では、新たな工業団地を整備することで、製造品出荷額の増加を目指すとともに、経済の活性化を図り、加えて、現行の企業支援制度の見直しを行うことで企業の設備投資に伴う負担を軽減し、雇用の創出、生産性の向上、税収の確保へと繋げていくものです。

また、新たな数値目標である新規雇用者につきましては、既存企業及び新規立地予定企業の事業計画による予定雇用者の半数以上を地元雇用とし、地元雇用者の 70%を見込んだ 63 人を最終目標値としております。

雇用における目標を明確化することで、第 2 期では更なる雇用の促進に取り組むとともに、地域経済の真の発展のために大企業が生み出す経済効果に頼るだけでなく、中小企業の力が様々な分野で発揮され、市内取引や市内消費の拡大による循環によって市内産業が活性化することが不可欠であることから、引き続き既存企業の育成支援を重要施策として位置づけ、事業内容の充実を図り、ものづくり企業が輝き躍動する香南市を目指します。

なお、第2回工業部会では、新規雇用者数の目標数値について、高知市内に雇用が一極集中していること、採用難で外国人雇用に踏み切っていること等、現状の雇用情勢を十分考慮し、下方修正する意見が出された事から、第3回の部会開催までに目標数値の再検討をすることとなっております。

また、新たな工業団地の整備や既存企業の拡張に係る工場用地取得支援については、工場用地の規模や周辺的环境も重要になってくることから、商工会との連携や企業訪問等により情報収集を十分に行い、企業のニーズに合った規模の区画整備や用地情報の提供を行うこと。人材の確保はIターンよりUターンに注視し、子どもだけでなく、学校の先生や親に向けた企業アプローチをして行くことが重要、等と言った貴重な意見も出ましたので、引き続き工業部会で検討を重ね、第2期に向けての施策に反映して行きたいと考えております。以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございます。

ここで、商業、工業分野について皆さんよりご意見やご感想をいただきたいと思えます。

(委員⑦)

シャッターが閉まっているものはすべて空き店舗だと思っていた。

やはり、貸す意思がないままシャッターが閉まっている元店舗が並んでいる風景は寂しい。

何か工夫して、活用できるような流れを生み出せるようにしてほしい。

(委員②)

事務系企業を5年間で10企業とあるが、この数字等について委員⑩からコメントをいただけないか。

(委員⑩)

商業分野の事務系企業の誘致に関しては、本日の午後に進出に関するか会見が行われる。

先立ちまして、企業の社長様に、進出の決め手になった部分等を伺った。

いくつかあるが、進出する企業はインターネットの活用した企業様の採用を支援する会社でございますので、自社で、非常に積極成長趣向して、雇用を創出していきたいということで、非常に旺盛な採用ニーズがあったというところでいきますと、今回非常に香南市のハード面、つまりは採用をするにあたっての地域の魅力があったということ。

どう見るかなのですが、求人倍率の低さが、相手にとっては非常に魅力を感じる部分であったことと大阪と変わらない時間で来れること。この2点のハード面ということになると思います。

ただ、一番大きかったことは、香南市自体のソフトと言いますか、誘致をどう盛り上げていくかといいますか、職員の皆様の思いとか丁寧さですとか情熱に、経営者の方は非常にひかれたそうですし、安心感も得られたとおっしゃられていました。このような潜在企業様はまだ多いと思います。より一層ハード・ソフト面を強化していくところだと思います。

ただし、目標の社数ですが、最後は企業様のタイミングです。

どういう事業を新たに作って、そのために香南市に拠点を構えるかという戦略がはまるタイミングがあると思いますので、どうしても計画的に積み上げていくところの難易度は、なかなか現状評価

はできません。

タイミングさえ合えば、進出の意思決定をされるのであれば、日常的に、どう、成長企業様とハード面・ソフト面における PR・接触を積み上げていくというところかなと思います。

一番大事なのは、今回進出した企業様が、しっかり採用でき、その方々が生き生きと働かれるかという、まさに進出後の対応にかかっていると思っています。

ここが非常にうまく回れば、それが事例として、より PR へとつながると思います。

社数にもこだわりながら、今回の 1 社目をどう成功事例に繋げていくかがポイントだと思います。

(赤池委員長)

ありがとうございました。その他にいかがでしょうか。

(委員⑩)

補足ですが、空き店舗ですが、ショップ型の新しい事業者さんが入るだけではなく、進出企業様のシェアオフィスとして活用する等のハード面の充実にもつながると思いますし、そういう企画とか取り組みを行うことで、相乗効果等が生まれると思います。

(赤池委員長)

委員⑩からは、移住もそうだが、進出する企業の、事業としては創業の促進であったり、誘致に対する支援はあるが、その後のフォローであったり、対応もしっかりしていかないとそのあとに繋がらないというお話をいただきました。

空き店舗の活用については、創業される方、進出される方への可能な限り動きやすい形での受入の話だったと思います。

その他、いかがでしょうか。

(委員①)

新庁舎ができ、空く香南市の建物があると思う。

その施設に企業が入ることも可能だと思われる。

ある程度活用される建物もあるだろうが、空いているところは是非香南市としてアピールして、施設を、企業が 1 社だけではなく、いくつか入るような活用を促していただきたい。

大峰の里もどう使うか聞いていない。津波のこともあるだろうが、アピールをしてほしい。

(赤池委員長)

商業部会からご提案いただいている部分は民間の空き店舗についてだと思うが、公共施設の活用についても様々な取り決めもあると思うので、そういうところも視野に、第 2 期、第 3 期の産業振興計画の中で、企業の誘致、企業が入りやすい土壌をつくる、ハードを整えていくというところが産業振興計画だと思っている。

(委員②)

大峰の里や、長期で見ていくなれば、夜須町であれば保育園や幼稚園が高台移転をした後の施設もある。

公共施設として利用できるものはしっかり民間さんにも利用していただくよう PR していくことを大事に考えていきたい。

ただし、法的に大丈夫かというところは事務的に詰めていかなければならないことはご理解いただきたい。

過去、民間さんと協議をしたこともあったが、その際は津波の浸水がネックとなりまとまらなかった経緯もありました。今後とも様々なことを見据えながら対応していきたい。

(赤池委員長)

他にございますでしょうか。

それではつづきまして、観光、サイクリング、住宅分野についてご報告いただきます。

(委員⑩)

観光分野のご説明をさせていただきます。18 ページをご覧ください。

第 2 期香南市産業振興計画推進観光分野の数値目標といたしましては、第 1 期香南市産業振興計画において設定していた数値目標に継続して取り組んでまいります。

対象施設の選定方法としまして、新たに観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」を採用しこれに該当する市内 10 施設による入込数を集計していくことといたしました。

なお、目標に対しては委員から、観光施設入込客数には施設利用料金を全額免除の対象者が多く含まれていることから、入込数だけにとらわれない目標の必要性について意見が出されたことから、新たな目標の設定について再度検討をすることとなっております。

目標を達成するための取り組みとしまして、資料の緑に部分になりますが、「香南市観光の発信」「観光の育成に向けた取り組み」「受入体制の強化」の 3 本の柱を設定いたしました。

「香南市観光の発信」では香南市の SNS での情報発信やイベント出店等に努め香南市を知ってもらう機会の創出をします。

「観光の育成に向けた取り組み」では新たな観光拠点の形成や新規イベントの開催により香南市に来てもらうための取り組みを行います。

「受入体制の強化」では香南市ガイド団体の技術向上や会員数確保のための取り組みや外国人観光客とのコミュニケーション能力向上支援等に取り組めます。

さらに観光客を対象にアンケートを実施することで課題を明確化し、改善に努めます。

これにより「香南市へまた来たい」と感じてもらい、リピーターの創出と観光客自身が香南市の発信者となることを狙いとしています。

これらの取り組みにより、観光産業の振興・発展につなげ、働き手の所得増加や新規雇用の創出を目指すことといたしました。観光分野からは以上でございます。

続いて、サイクリング分野についてご報告させていただきます。19 ページをご覧ください。

第 2 期に向けての数値目標の設定や、各施策について、第 2 回・第 3 回専門委員会を開催し、話し合いがおこなわれました。

以前より、委員会内で「香南市がサイクリングの取組を進めるうえで、何を目指しているのか方向性が伝わらない。」との意見をいただいていた。

第 1 期の数値目標で定めていた「レンタサイクル利用者数」も、それぞれの取り組み内容とす

り直結したものであるとは言い難いことから、第 2 期では市がサイクリングで目指す「観光と健康」に絞った事業展開を中心に、それぞれに必要なハード整備を加え、「対外的な観光、市民向けの健康、環境整備」3つの柱を主軸に取り組んでいくことを話し合いました。

各委員からいただいた意見を基に、「サイクルイベント・大会参加者数」と「サイクルサポーター数」の2つを数値目標として設定しています。

「サイクルイベント・大会参加者数」は、これまでのイベントに加え、三宝山スカイラインを活用したヒルクライム、こちらは令和3年2月開催で調整中ですが、それに加え、南国・香美・香南の三市をまたいだロングライド、こちらは令和3年度中に開催で調整中ですが、これらを開催し、観光部会で設定しているスポーツツーリズムへ寄与すると共に、宿泊をセットとすることで市内事業者に実益が出るような仕組みづくりを考えています。

ちなみに、県外で開催されたロングライドと同等規模のサイクルイベントでは、一人あたり開催地へ宿泊・食事・土産等で約13,000円の収入があるそうです。

この人数設定でございますが、既存イベント6種に新規イベント分を加えた数値を設定し、PRやリピーター確保により見込める参加者増加分を加味しています。

また、イベント開催時には、スタッフはもとより開催する地元が理解し歓迎することが必要不可欠であることから、2つめの数値目標として「サイクルサポーター数」を設定しました。

これは市内向けの取り組みで、イベント開催時には、サポートスタッフや出店等をもって取り組む、実働をもった参加型サポーター制度を構築し、サイクリスト受け入れ体制をまちぐるみで推進していければと考えており、自転車利用促進に参画し、実際に活動してもらえる事業所・団体を対象と考えています。

イベント開催時には一定の労力が必要であること、また、市民への注目度を集めていくことが近道でもあることから、市内の各種事業所・団体の参画を促していき、これにより、サイクリスト受け入れ体制づくりを進めつつ、イベント規模を大きくしやすくなることで、一つ目の目標であるイベント・大会参加者増にもつなげやすくなると考えています。

また、日常では、自らが健康づくりに自転車を活用しながら、また、自転車を利用しない場合でも自転車交通に理解をもって、観光サイクリストや市内通学・通勤自転車との良い間柄を作っていくことも目指しています。

令和2年度の数値が最大であるのは、現時点でレンタサイクル、サイクルオアシス・ラックを設置済みで、一定自転車に対する取組にご理解いただける施設や事業所を考えているためです。

なお、サポーターの受付や管理方法については、次回専門委員会で話し合っていきます。

また、それぞれの取り組みについては、資料内に記載していますのでご覧になっていただいたとおりますが、その中の「香南市自転車活用推進計画」についてご説明させていただきます。

自転車活用推進計画は、自転車の活用を総合的・計画的に推進していくもので、国が指針としている「自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成」、「サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現」、「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」、「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」の4つの柱に沿いつつ、「サイクリングターミナルの効果的な利活用、整備」を加え、それぞれ目標時期、数値を定めながら実践的でスピード感をもって整備等を行うため、市独自のサイクリング推進の骨子として来年度策定していきたいと考えています。

この活用推進計画は、産業振興計画とも直結した内容とすることが必要であることから、サイクリング専門委員会のメンバーを中心に計画づくりを進めていければと考えています。

以上がサイクリング分野の説明となります。

(建設課長)

住宅分野ではこれまで市の4つの課の取り組みが中心となっておりました。

住居のリフォームは建設課、市営住宅のリフォームは住宅管財課、耐震関係は防災対策課、空き家バンク等の取組は地域支援課となっております。

中でも、住宅リフォーム制度はもとより、市内業者を活用する事になっており、平成27年度から活用率も高く、昨年度も市内業者に約1億円の工事費があったことから、一定の経済効果へと繋がっていると考えます。

各事業についても今後も引き続き取り組んでいく予定でございますが、情勢を見ながら、補助金については見直し等を行っていきたいと思っております。

住宅分野の今後ですが、新規として「宅地整備」ということで、都市計画マスタープランというものがありまして、香我美支所周辺と夜須町の上夜須地区周辺に住宅整備を行いたいということで計画にも上がっています。

このことについては、現在調整中ではございますが、人口増に繋がるということで産業振興計画ともリンクする部分でございますのであげさせていただいています。

今後ですが、例えば、農業で、ミカンの収穫等の一時的な労働力の確保のために、県外等から来る方の泊まる場所の問題なども出てきているそうですし、ワーキングホリデーとして長期で滞在する際の補助金もあるそうですが、様々なニーズの中で、住宅部会として対応していくことをしっかり見極めながら、取り組みを進めていきたいと考えています。簡単ですが、説明は以上になります。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

それでは、3つの分野について皆様からのご意見などをいただきたいと思いますが、その前に、1つ、私からご質問をさせていただきたい。

先ほど、観光分野の数値目標の中で、金額の目標数値もご検討されているということですが、対象10施設の入場料等の総額なのか、売上額の合計にしようとしているのか。

(委員⑩)

各施設から頂く貴重なデータである。

現在、そのデータについてもご提供いただけるかも含めて確認を進めているところであり、確定ではない。

(赤池委員長)

金額としても数値目標にあげていくことをご検討されているということによろしいでしょうか。

(委員⑩)

その方向で、各施設と打ち合わせを行い、できるように進めています。

(委員①)

サイクリング分野は分けられているが、スポーツ分野という大きな目で、その中にサイクリングがあるという形にしていかないと、今後の観光の中でも、現在、塩の道トレイルランニングだとか、ヨットを活用して県外からの誘客も図っているのので、香南市産業振興計画の中に、サイクリングだけではなく、あと5年、10年のスパンの計画であれば、スポーツ分野の形態として、その中の1つの取り組みがサイクリングであるというふうにするべきではないか。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

観光分野の中に、スポーツツーリズムの推進ということで新しく、また重点施策の中で入ってくると思われる。

サイクリングは第1期から立ち上げ、ご議論いただいている。

産業振興計画の策定員会の中で、産業を中心に議論をしていく中で、スポーツというのは健康等、様々な目的であったり関わりがあろうかと思しますので、産業分野からスポーツ分野を考えた場合、どう産業だけを切り離して議論できるのか、まだ今のところわからないのでこういう形になっているのだと思う。

スポーツという部分は別の健康とか福祉とかの分野で関連するところだと思いますので、そこを整理して、まずは産業振興計画の中では、観光の中でスポーツが位置づいているということとサイクリングというのは全体を横繋ぎするものとして期待されているところだと思いますので、分野の構成については、事務局とも相談しながら、他の委員会とも相談しながら、スポーツの位置づけを産業だけに特化させるというよりも、香南市全体の中で福祉であったり健康であったり、産業の部門であったり、教育の部門もあると思うので、そこをしっかりと整理してお返ししたいと思っています。

その他いかがでしょうか。

他分野との連携でも構いませんし、全体を通してのご意見でも構いません。

いらっしゃらないようですので、全体を通じて、また、これまでの事務局との打ち合わせを通じて第2期の方向性について少しまとめを兼ねて発言をさせていただきたいと思います。

1つ目は、資料1の中で、産業振興計画の基本的な考え方というところで、産業成長戦略の部分と地域活性化策というのが、高知県産業振興計画と関連させながら、香南市の産業を発展させていくとあります。

今回各部会からご提案いただいた、第2期の方向性の中では、産業成長戦略、つまり行政が中心に支援していくものと、教育や林業部会にあった環境、サイクリングにあった健康という部分の、おそらく、市民や各団体等が主体となっていく地域活性化策が混在している形になっていると思います。

産業振興計画を市町村単位で行っているのは香南市だけであると認識しているので、だからこそ、2つの考え方が一緒に混ざっているというのは非常に良いと感じている。

一方で、個別の目標を作って、具体的にその達成目標のために、毎年PDCAサイクルで回し、確認し、変えていくわけですが、その時、なかなか地域活性化策については、KPIがなじまないものがあったりします。

本日、第2期の方向性について示され、基本的な考え方を共有できたと思いますので、KPIの目標であったり、産業振興計画の中で重点課題については、少し計画づくりに落とし込むときに、すみ分けて整理したほうが良いと感じている。

2つ目は、どの産業においても、移住であったり、企業訪問、教育も含めて、香南市の産業を担う次代の若者、これは子供も含めたことですが、その方たちに向けた取り組みが各分野で様々に見受けられます。

既に課同士の連携は始まっていると思いますが、移住と企業訪問、企業誘致も含めて、もう少し具体的な発信の仕方の共通性だったり、各分野が持っているデータだったり、取ってくるデータを発信の方法も含めて一緒にできないかなというのが強い思いとしてあります。

10月に行われた合同部会では、首都圏の方の視点で香南市の魅力を考えるワークショップを行った。

移住であったり、企業訪問、企業誘致、空き店舗を活用、起業に関することも含めて、もう少し、人と産業の関わりの部分を、分野を超えて横断できるような産業施策というのが共通してあってもいいのかなと感じています。

3つ目は、市民が中心となり、行政が支援することが、産業振興計画の考え方ではありますが、一方で、香南市だけで、狭い範囲の中で産業振興を考えると息詰まることもあると思います。

なので、こういったパートナーと手を組んでいくのかということになると思います。

パートナーというのは、企業の場合もあるし、隣の市町村の場合もあるし、この分野では個のパートナーと組んでいくというような形で、各分野についての産業の連関であったり、香南市を超えた取り組みを進める際のパートナーを明確に定めることが必要だと感じました。

以上の3つについて気になったところです。

このことは事務局と共有し、第3回の会議では、折り込めるものは折り込んで、折り込めないものは、皆様にご説明を差し上げたいと思います。

皆様の中で、全体を通じて、ご意見などはございませんでしょうか。

(委員⑩)

産業振興計画の中心的な課題は1つ「人口」だと思います。

特に、このような各取り組みでは社会増減に直結してくると認識している。

その中で例えば、横断的にでも「関係人口」というような概念、考え方については取り込まれていらっしゃるのかお教えいただきたい。

例えば、全国の面白い事例として、移住をして働くというのは第1次地方創生の中で難易度が高いよねということで、第2弾のコンセプトということで関係人口というものが出てきたとおもうのですが、具体的な面白い例は、「スキルシフト」という取り組みがある。

東京圏にいらっしゃるハイスキルの方が、移住はすぐにできないが、副業として地域で地域企業さんのお手伝いをする。その地域に、より移住をとも伴わない形での関係性を構築しながら、ゆくゆく移住へと繋がっていくという、いきなり移住ではない概念を、より長期的な発展を見据えたときに、種をまくような方法もあり、ご紹介させていただきました。

(赤池委員長)

産業振興計画の中で、人と関わる部分というのは様々な段階があるということだと思います。

特に、担い手という位置づけにしてしまうと、全員が「担い手」になってしまうのですが、そうではなくて、観光のお客さんについては、香南市と外、内との人とのつながり、移住を考えている場合は、実際に引っ越してくることも関わりの1つ。

企業が入ってくることも同じで、また雇用が生まれるということも、人と産業の繋がりになる。各産業ともに、「担い手」という一言でまとめているところを、もう少し、「関係人口」という言葉で、産業と外の人との関係を段階的な関係であったり、多様な関係というのをもう少しまとめられないかということだと思います。

産業振興の中では、関係人口という方をどちらかという「担い手」という形で、内の人を見てきたわけですが、上位計画のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、第2期に向けて「関係人口」というものを整理している部分だと思います。

産業振興計画の中では、単に人を「担い手」だけとして捉えるだけではなく、そこにも、産業の中にも様々な多様で、また段階的な関りがあるということはしっかり共有したうえで、単に担い手確保だけではなく、例えば、観光できたお客さんと、移住できた方は全く性質の違うものなのですが、産業と人との関りについての関係人口、またはその他の関わり、または名称について、上位計画である総合戦略に対して、産業振興計画としてこのような意見があったことをしっかりお伝えさせていただきます。

(委員⑫)

全体を通してのお話をさせていただきたいと思います。

委員長もおっしゃられた通り、香南市の産業振興計画は、分野別成長戦略と地域活性化策の2つの取り組みを柱としていくとある。

その中で、第2期香南市産業振興計画ということですが、林業分野の資料が非常にわかりやすいと感心したところです。

全てではないが、間伐事業の実施についての事業主体がこれは市、これは民間業者が行うと明確化されており非常にわかりやすい。また、その取り組みによって、目標である間伐面積に向けて進めていこうといういうことが非常に明確にあると思う。

できれば、他分野もそのように、市がやるもの、市以外のものがわかるように事業主体を明確にして、お互いの取り組みによって目標数値に繋げていくというような形が非常に見やすくなると感じた。

加えて、個別の話だが、商業分野の今回「新マーク」で、空き店舗対策、振興計画の策定、空き店舗の実態調査等に新しく取り組んでいきたいと思いますということで、商工会さんと商工水産課さんと一緒に取り組んでいく予定だと思います。

県の産業振興計画の話になってしまうが、香美・南国・香南市の物部川地域の地域アクションプランの総括をやっておりまして、南国市、香美市には、アクションプランに商店街振興計画的なものがあるが、香南市は現時点では入っておりません。

県の産業振興計画も来年度から第4期の新計画と成長戦略と地域アクションプランが出来てきますので、香南市の第2期産業振興計画に商店街等振興計画や空き店舗の調査なり、チャレンジシヨ

ップなり新しく盛り込まれているので、是非とも地域アクションプランに新規ということで入れさせていただきます。

また、商業部会の中でお話が出てきた事務系企業の毎年2件のお話が先ほどありましたが、参考までに、高知県では、平成16年度から事務系誘致に本格的に取り組み、14年間で、16社、18事業所となっています。

企業誘致というのは事務系に限らず、製造関係、工場も含めて、全国との競争になってきます。最終的に高知を選ぶのか、他地域を選ぶのかを相手様は天秤にかけていることが多く、最終に決めていただきたいのですが、非常に厳しい部分でもあります。

事務系に関して言えば、有効求人倍率は、県は1.2を超えていますが、分野別に分けると、事務系は0.4と事務系の有効求人倍率は非常に低い状況で、働く場所がない状況です。

一方で東京では2.0ということで人の取り合いになっている状況で、東京の本社がある会社にとっては、人の確保のために、オフィスを切り分けて、地方に進出するですとか、事業拡大のために、サテライトオフィスを構えるなどの動きは活発になっております。

その中で、県としても事務系誘致を進めてまいりましたが、他県との競争によって最終選ばれなかったということもあります。

決め手となるのは、人の確保をどれだけ行政がサポートするのかという部分もございまして、企業様によっては、企業のお考えに沿った物件があるか、また将来のリスクとして津波浸水エリア外を求める傾向にあるとなると高知県は厳しい部分もある。

なので、この10企業というのは非常に高い目標であると思われるが、高い目標を掲げて真摯に取り組んでいくことは非常に大事なことです。そのあたりは、一度はご検討された方が良いのではないかと思います。

委員①からスポーツ関係のお話がありました。香南市にはマリンスポーツも盛んに行われているので、そういうところでもというお話だったと思うが、今のサイクリング専門委員会の方でも、観光だけではなく自転車を活用した健康づくりであったりですとか、この部分で言いますと市民向けの交通安全の普及も含まれています。

産業振興でいきますと、やはり「経済活動」を中心とした話になってくると思うので、専門委員会の中では全体の話をするのは当然だと思うが、産業振興計画の中では、やはり「観光的な部分」ですとか、それに付随する部分を入れていけば良いと個人的には思っている。

マリンスポーツも多くの方が楽しんでいただいているので、その方々の入込客数ですとか、周囲に経済的な影響があるようなことを、すぐではなく、今後盛り込んでいけるように、スポーツ全体で通じて、いかに市外から圏外からお客さんに来ていただく的な視点でご検討されても良いのではないかと。

観光の中に地域アクションプラン上の取り組みのことが記載されている。三宝山エリア、ワインの取り組み、ヤ・シィパーク関係のことがありますが、県の方でも現在見直しを図っている。

その下の広域観光の部分もあるので、市と連携しながら仕上げていきたいと考えている。

(赤池委員長)

ありがとうございました。

産業振興計画の全体に関わるのところでは、それぞれ第1期で、全体としてなかなか目標を達成でき

なかった中で、これまでの第1期の目標を継承し、第2期に事業の拡大ですとか、新規の取り組みをたてていって、新たな目標を目指す中で、事業の拡大だったり、新規事業を建てていく中で、誰が事業主体となるのかというところをしっかりと明記しましょうという内容だったと思います。当然、香南市単独で行うもの、民間の企業中でも記載ができる範囲で、公的などところを担っている部分であったり、企業が入っていただけるようであれば、産業振興計画の具体的な実施主体の中に、事業主体を表記できる形で、より具体的な産業振興計画にしていきたいと思います。

2つめは、拡大、新規事業については、県との連携を確認して進めていくところだと思います。そこは、第3回目の会議時に、この案を磨き上げて、皆様にお見せしますので、高知県産業振興との関連、また、事業主体の標記できるものについては具体的に記載してお示ししたいと思います。

(委員④)

先の合同部会にも参加させていただいた際、農業の方から、「香南市で農業をしたい」と移住してきても、農業はできない、農民でないといけないというお話をいただいた。

例えば、移住者がそこで仕事をするのに、いきなり農業者にはなれないと思うが、室戸市では、漁業をやるのに、最低何人かが必要で、その人数を確保するのに、移住者が何年か頑張れば、組合の権利をあげるような取組が功を奏して何とか人員確保に繋がっているという話を聞いたことがある。

林業についても、東京のフェア等では高知県は人気であるというお話を伺ったが、それでもまだまだマンパワーが足りない現実がある。

要因としては、いきなり地元以外の方が飛び込んできて、自分の山を任せるような気持ちにならないというような意見もあるそうで、その点で、仕事として成り立たないケースがあるとも聞く。例えば、佐川町なんかは、森林整備を頼みたい際に、役場が要望を集めて、林業に重視するために役場に勤めていた元メンバーの方々に、請け負った山を再委託するようなことを実施している。役場からの仕事を得る期間は1年更新で、いい加減な仕事をする方は、次年度更新されず仕事を得られなくなるのでしっかりした仕事もされるそうです。

役場が仕事を用意していて、飛び込んできてもとりあえず仕事があるという状態があって、移住者の大半がそこで社長になりたいのではなく、安定した仕事がほしいというような県の統計もあったはずなので、このような取組を農業でも活かしてみるのはいかがでしょうか。

(赤池委員長)

農家になれないという部分は、農地法の関係で農地を取得できないということだと思います。夢を持ち、香南市移り住み、自分のやりたいこととマッチできない現実もあろうかと思いますが、農業に関しては農地を持たないという解釈でよろしいでしょうか。

(農林課長)

農地の取得はできませんが、利用件の設定をすれば、農地の耕作はできます。市の方でも、移住プラス就農しませんかということで取り組みは行っておりますので、そういった受け皿につきましても市は考えていますので、今後も推進を進めていきたいと考えています。

(赤池委員長)

農業は様々な研修もあり、林業でも研修がある。

(委員④)

例えば、農業で来たければ合わない場合、漁業を試してみてもというような分野を超えた連携を形にできないかなということを考えています。

(赤池委員長)

雇用の紹介というのは法律上、定めがあるところでないといけないことになっているはずなので、行政は、情報提供はできると思います。

産業振興計画も含めて、総合戦略というのは、産・官・民・学・金・労等の連携を望まれますので、労働部署、例えばハローワーク等も総合戦略に位置づいているので、そういうところとしっかり手を組んでやっていくことが大切だと思います。

香南市だけで移住者の差配をしようとするあまり面白くないのではないかな個人的には思います。

やはりそこに、民間であったり、そこに従事されている方が関わってくれるような、プラットフォームみたいなところ、職業としてはハローワークのような許可を持ったところが推薦するんですが、もう少し、人のつながりが見える部分があって、紹介であったり、新たに来た人が、香南市の産業の基盤の中でやっていく部分と新しくやりたいという部分があると思うので、そこがなかなか合致しないということもあるとは思いますが、そういった新しいところを作っていく、ハードとしては、例えば、商業分野であれば、空き店舗の話であったり、農業についても自分でやりたい農業と、担い手として期待してしまう農業は違うということは当然あるかと思いますが、その部分は各部会の中で担い手をどういうふうに、マッチングさせていくのかだと感じる。

250万円稼げるような、暮らしていける担い手をマッチングさせていく目的と、農業は100万円でもいいが、他の仕事もやるんだという方もいる中で、個別具体的なマッチングであったり、移住者の意向についてできるだけ配慮できるようにしていかないと、なかなか人は集まっていけないと思います。

産業振興計画の中の、先ほどで説明しました通り、すべての分野で移住だったり、企業訪問、企業誘致、観光のお客様も含めて、人と関わる部分がありますので、その中で、産業振興計画全体として、総合戦略に対して、「人との関わり」を、受け入れだけではなく、多様な方とをどう香南市を繋げていくのかについて報告をしていきたいと思っています。

香南市に来て、思い通りにいかなかったという部分をうまくマッチングできるようにしていく必要もあると思いますので、各分野でミスマッチがあるようでしたら、そのことをご報告いただいて、それについてどう対応していくのかをこのような場で話し合っていきたいと考えています。

その他にいかがでしょうか。

それでは、本会を振り返ります。

第1期の産業振興計画の達成状況については、ご確認をいただいたところです。

そして、第2期の方向性について、各部会からご報告いただき、ご議論をいただきました。

本日の会では、第2期香南市産業振興計画の方向性について、みなさんにご確認をいただきましたので、頂戴した意見等を含めて、第3回の策定委員会では、第2期香南市産業振興計画を、今は「案」になっておりますが、更に具体的にたたき上げたものをお示しするように事務局と相談をしながら調整し進めていきたいと思っております。

その他、なにかご意見などはございませんでしょうか。
なければ、ここで事務局にマイクをお返しいたします。

(事務局)

赤池委員長をはじめ、委員の皆さま、長時間にわたり熱心なご議論ありがとうございました。それでは、次第4のその他と言うことで「スケジュールのご説明」をさせていただきます。参考資料3をご覧ください。

資料の右から2列目にありますとおり、次回の策定委員会は1月29日を予定しています。詳細は追ってご連絡をさせていただきますが、各分野における本日のご意見を反映させ、また、各部会の数値目標や戦略の柱に紐づく取り組みについて、次回はお示しさせていただきたいと思っておりますので、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

それでは、閉会にあたりまして、田内副市長、よろしく申し上げます。

(田内副市長)

皆様、長時間にわたり、様々なご議論をいただきありがとうございました。

今日につきましては方向性ということで、少し漠然としたようなところもあったかもしれませんが、第3回目につきましては、もう少し具体的な令和2年度から令和6年までの施策とそれに伴う数値目標をお示しさせていただくことになると思います。

この間に開かれます各部会においても、ご議論をお願いする形ですが、この施策がいいのか、もっこの施策を入れるべきではないか等のご意見をいただければと思います。

また、数値目標などについても、「本当にそれでよいのか」という議論をしていただければと思いますし、それを受けて、第3回の策定委員会が開かれますので、その部分も併せまして、お願い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

以上